



# 大変革！ 生成AI時代のサービス開 発

2025/8/29



# 自己紹介

なまえ：岡本 健

しごと：株式会社オープントーン  
サービス開発室 マネージャー

去年までkintoneやBacklogの導入・カスタマイズ支援サービスを担当。  
今年から心機一転、新しいものづくりに邁進中。

本出ます！  
9月10日発売！



# 子育て世代の声

地元にどんなイベントがあるのか情報が入ってこない

気付いたときには  
申し込み期間が終わってる...

The logo for HAGUMU is rendered in a vibrant red color. On the left, there is a stylized icon of a person hugging a smaller figure. To the right of this icon is the word "HAGUMU" in a bold, rounded, sans-serif typeface. The letter 'G' is uniquely designed with a hand icon inside its counter. The final letter 'U' is topped with a small plant sprout and radiating lines, suggesting growth or energy.

**HAGUMU**

# 地元の子育て情報を手軽に入手したい

- 地図やカレンダーから、参加したいイベントを探せる。
- 住んでいる自治体の子育て支援制度を見られる。
- 自治体の予算情報を元にしたレポートを見られる。
- and more..



よろしくおねがいします！

# 今日お話しすること

- サービス開発の流れ
- AIツールの選び方
- AI導入の効果
- 詰まりどころと解決方法

**サービス開発ってどうやるの？**

# 従来のサービス開発の流れ



# サービス開発に求められる人

企画

開発

開発

運用



優秀なアイデアマン  
・ マーケター



優秀なフルスタック  
エンジニア

おや…?



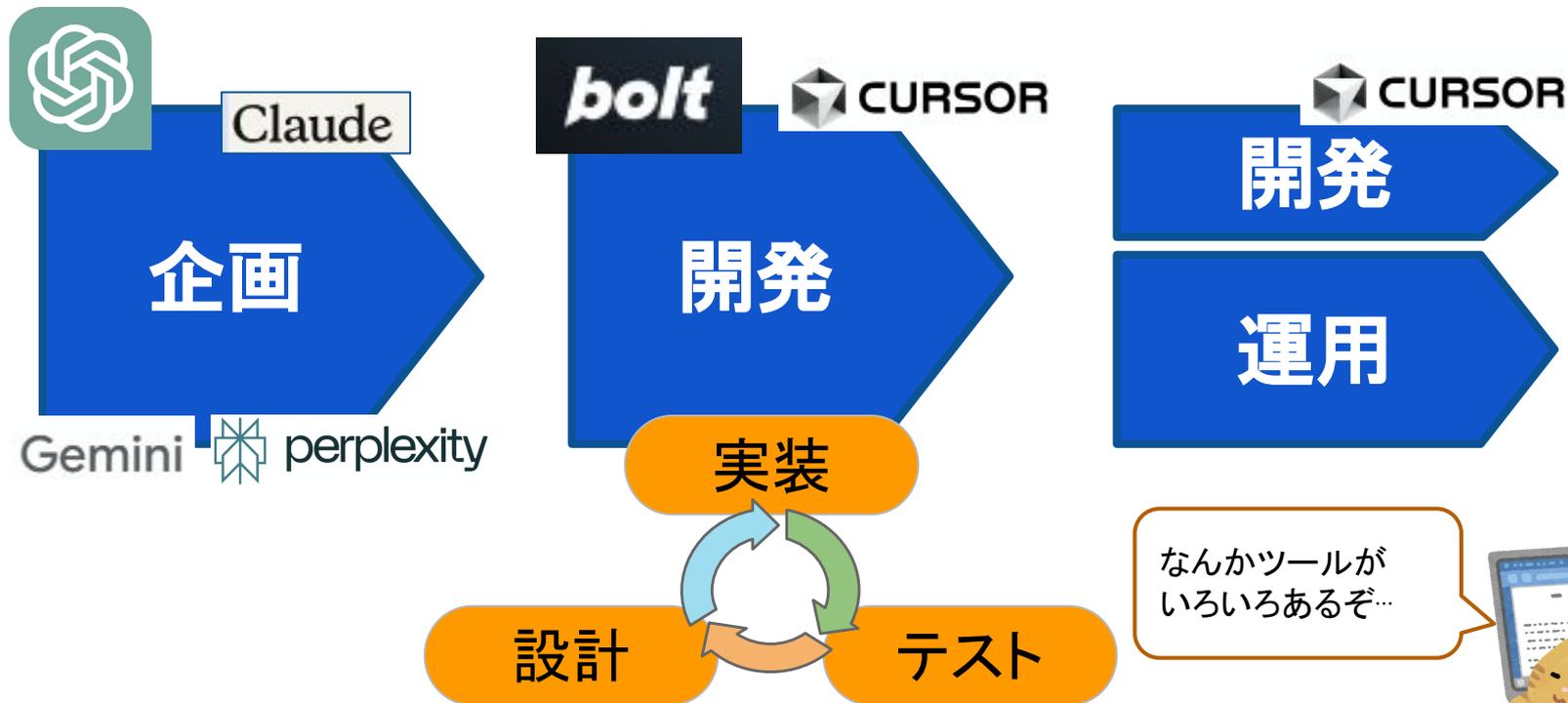
# わがチームのメンバーは？

- 一人はデザイナーで開発未経験。
- 残る二人も現役バリバリの開発者ではない。  
→ 優秀なマーケターもフルスタックエンジニアもない



**人がいないなら  
AIを使えばいいじゃない**

# どこでAIを使う？



# どうやってツールを選ぶか

ツールの種類も多いが、それぞれプランも複数ある。

基本的には**機能**と**価格**を見る。

やりたいことがいくらでできるかという視点が大事。

安いプランでも基本機能は使えるが利用可能量が少ないとか  
GitHub連携ができない等の制限がある。

# ツール選定プロセスの課題

## AIツールならではの課題

- ・ 毎月のように新しいAIツール・APIが登場
- ・ 1つのツールの評価をしている間に別の強力な競合が登場している

**「しっかり比較してから選ぶ」という従来のIT選定プロセスはAIの進化スピードに合わない**

# ツールを選ぶ際に考えること

## まずは使ってみる

- ・ 効果ありそうなら無料プランで仮採用。感触を見る。
- ・ 触らないとツールごとの色が分からない。

## 並行利用にもメリットあり

- ・ 一つのツールだけでは正確性の担保が難しい。
- ・ セカンドオピニオン、サードオピニオンとしても有効

## 別のツールへの乗り換えやすさも考慮する

- ・ 「より良いツールの出現」「サービス終了」の可能性を常に考えておく。
- ・ ソースコードやコンテンツを特定のAIツールのみで管理しない。

# ツールの選び方 まとめ

- まずは触ってみて**よい補助役**を探す。
- 完璧な比較より、小さく試して早く回す。

# 実際に使用したツール アイデア出し・検討

- ChatGPT
- Gemini
- Claude

アイデア出しや、検討の深掘り・壁打ち相手に活用。

サンプル実装や小規模な実装にも活用。lambdaや自動化スクリプト作成にも使える。

# 実際に使用したツール 分析・情報収集

- Gemini DeepResearch
- Perplexity
  
- Genspark

情報分析や広範囲の情報収集など。  
Geminiで分析結果のWebページ化も可能。

Gensparkは主に資料やLPなどの静的ページ作成に。

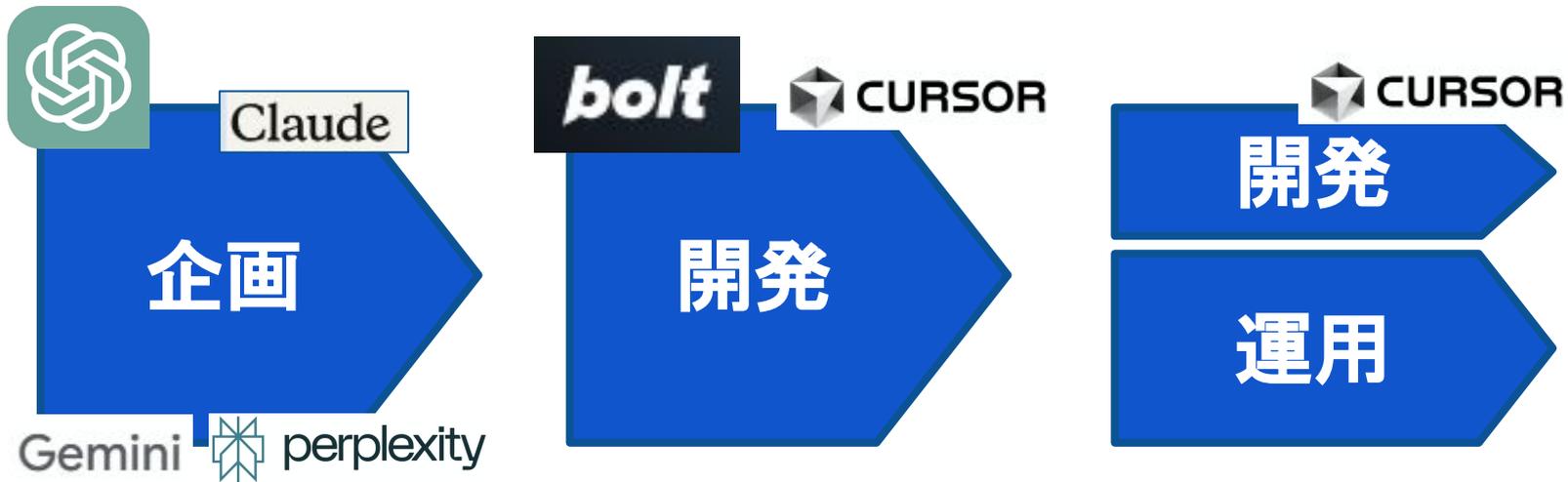
# 実際に使用したツール 開発

- bolt.new
- Cursor

bolt.newは0からプロダクトを作成するのに最適。  
自然言語での指示からシステム一式を開発可能。

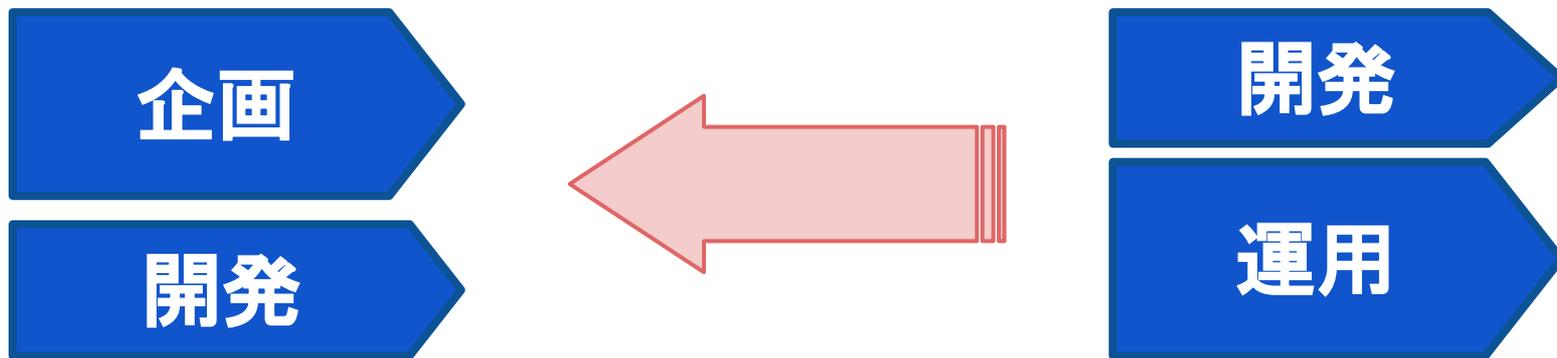
Cursorは存在するコードを修正したり機能を追加するのが得意。VS Codeの派生なので拡張性がある。

# いろいろ試した結果こうなった



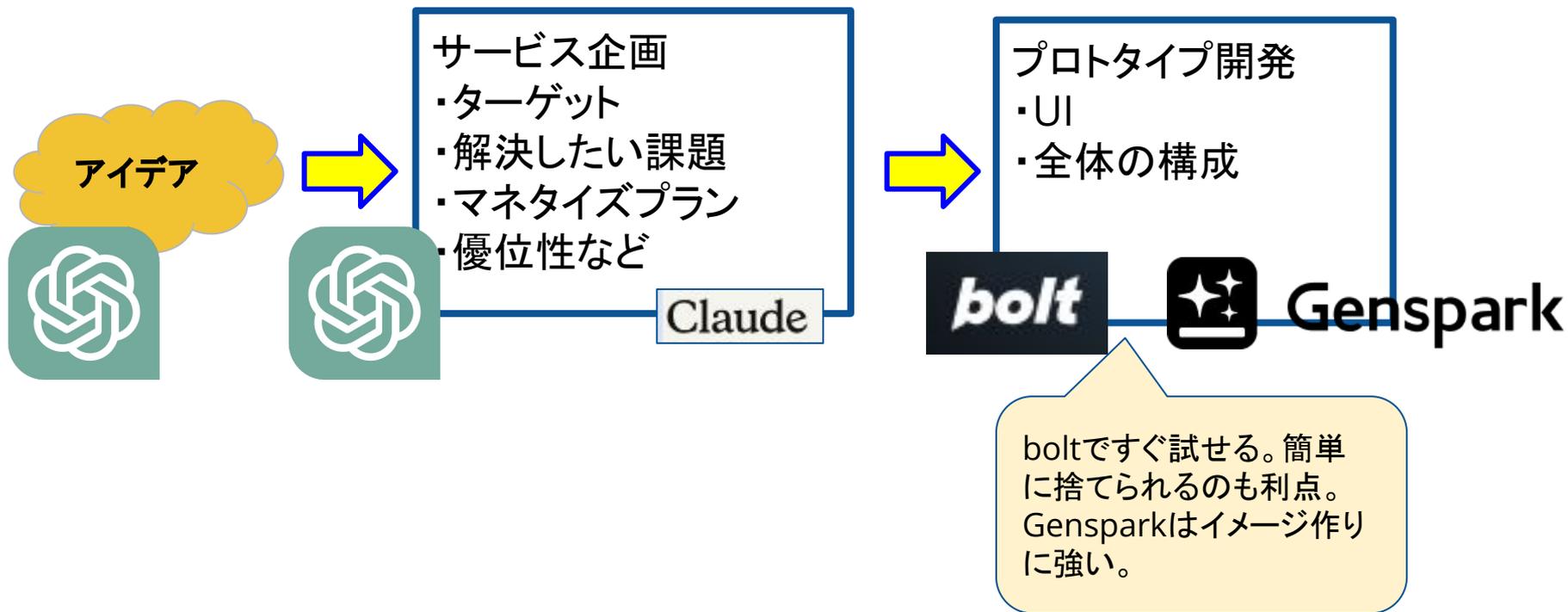
# AI導入の効果

# AI時代のサービス開発

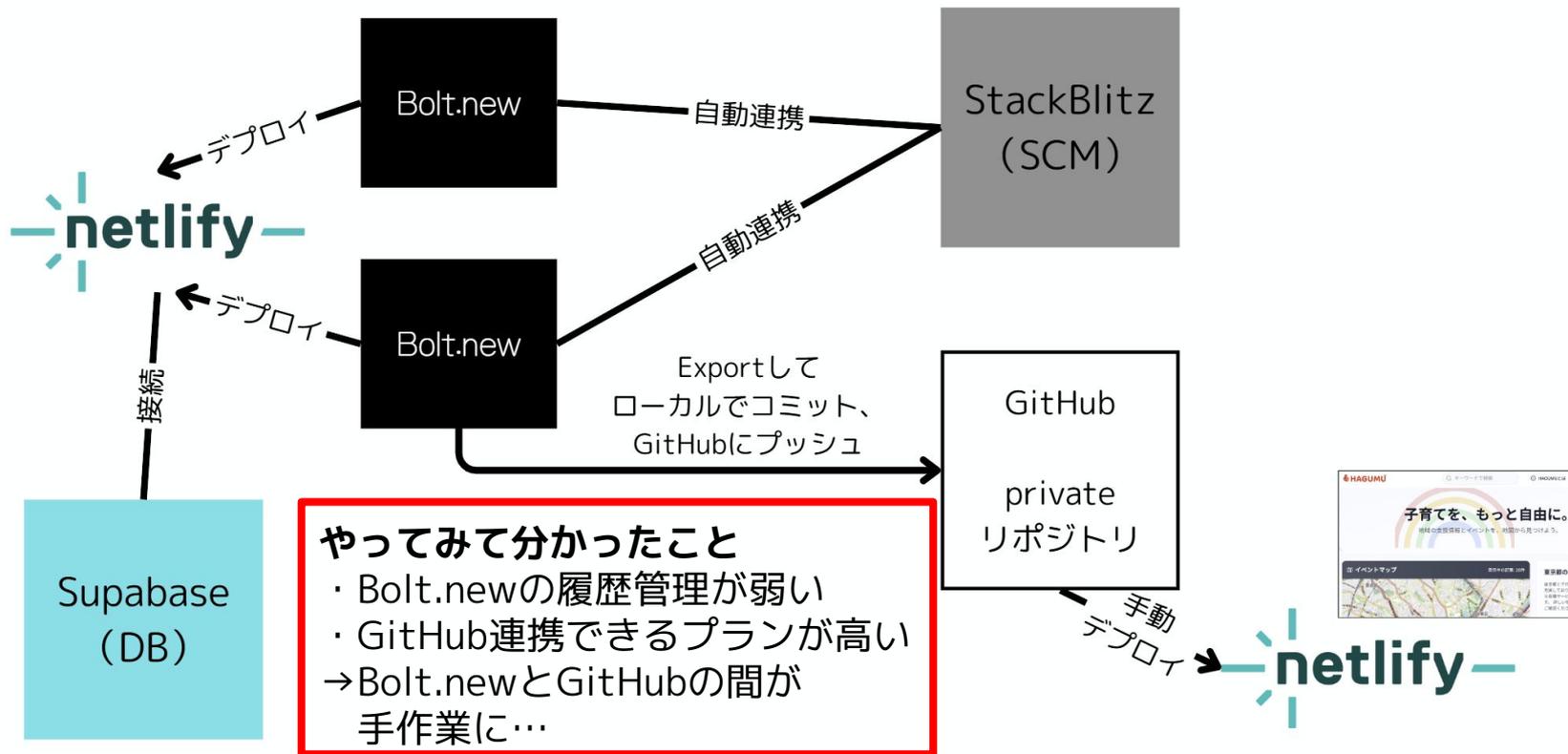


開発工数の短縮により企画と開発を同時に進められる。  
数ヶ月＋数ヶ月かかっていたものが数時間になることも。

# 実例 HAGUMUの場合

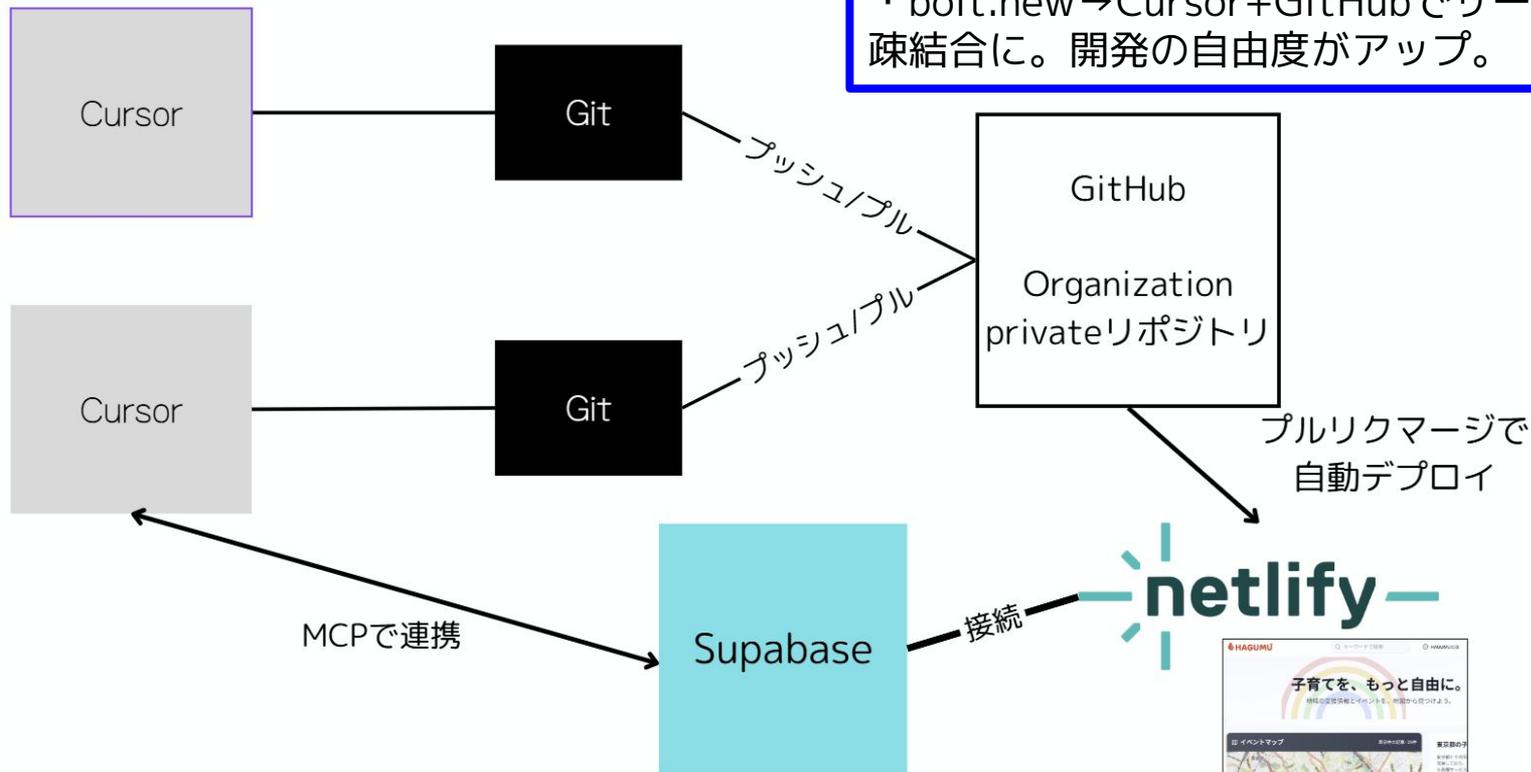


# 初期開発～α版リリースまで



# α版リリース以降

- ・履歴管理はGitで解決
- ・Netlifyの有料プランでGitHub連携
- ・bolt.new → Cursor + GitHubでサービスを疎結合に。開発の自由度がアップ。



AIツールの導入によって、アイデアを思いついたら  
即座に動くものを作ることが可能になる。既になっている。

動くものを作るということだけ考えれば、高い開発スキルは  
必ずしも必要ではない。

誰でも **超スピード** で  
サービス開発できる時代が到来

# 詰まりどころと解決方法

- 生成AIでなかなか思い通りの結果が得られない
  - 画面開発であれば対象を特定できるように名前をつけて、プロンプトで指定する。「画面右の〇〇ボタン」→「△△エリアの中の〇〇ボタン」
  - プロンプト自体を他の生成AIに作ってもらう。
    - 「〇〇がやりたいから△△用のプロンプト書いて」とか。
  - 複数のAIに同じことを聞いてみる。
    - セカンドオピニオン大事。思いの外、良いものが出てくる場合も。
    - 同じChatGPTでもo3と4o、5ではかなり違う。  
それぞれ得手不得手があり一概にどれが良いとも言えない。

- AIは必ずしも人間好みに実装・設計してくれない
  - AI任せでもある程度は動くものを作ることができる。  
ただし、規模が大きくなると命名や実装の一貫性に欠ける部分があるので、現状は人のレビューが必要。
    - 完全にシステム開発が分からない人がサービスを作れるかという、まだ難しい。早い段階で行き詰まる。
    - AIが結構作り込んでしまった後にファイルを分割するリファクタリングを依頼したらエラーが多発し、挙動も変わって、結局、人が細かく指示を出してリファクタリングすることになった。



# まとめ

- 生成AIを使うとサービス開発のプロセスが大きく短縮される。
- 誰でも超スピードでWebサービスを生み出すことができる。
- 生成AIは急激な進化を続けている。

**とりあえず使ってみることが大事！**

**ご清聴ありがとうございました！**